

西東京市の地域交通Part.3 まとめ
 “ひやり！はっと！”したこと

2009.3.12

運行全般	走行中・乗降中		コーディネート	その他
始発に於いてタイヤなど足廻りを見て確認する様にしている。	乗降中に足台のぐらつきがあるとヒヤリする。	狭い道でお年寄りが自転車で先行していた、追い越そうとした時にふらついてきた。	車種の関係で車椅子の利用者の送迎時間が長くなってしまうことがある。	こっそりエアコンを入れたら利用者の咳がとまらなくなった。
添乗者がいないので利用者を車に残して玄関まで行く不安。	ドアを閉めたときに利用者の腕が当たりそうになったことがある。	五叉路の交差点で複雑な信号の為、青信号を見誤り発車しそうになった。(停止ラインをオーバーして止まる)	ヘルパーが入っている利用者宅になかなか固定に近い時間で迎うことが困難。	利用者やその家族とスタッフとのパイプ役として伝達方法を工夫しなければならない。
車に対する知識が少ない。	東伏見通りの障害者センター入り口の信号では、自転車が信号を見ないで通行することがある。	信号の無い交差道路で左右をよく確認せず出ようとして警笛を鳴らされる。	効率の良いルートを組む事が難しい。入室時間を考えたり本人の希望をきいてること。	暑がりの方、寒がりの方がいる中で冷暖房を作動すると、いろいろと問題が出てくる。気分が悪くもどした人もいる。
車椅子にフックがとまっていなかった。	裏道での大人、子供を問わず自転車の飛び出しがあり、大変な思いをしたことがある。	利用者が車が止まらないうちにドアを開けた。利用者、急に降りようとする。	送迎予定が変わって知らない利用者が乗ってきた。	時間通りにお迎えに行くので、出来るだけ裏道を通ることが多い。今まで危険な事はなかった。
車椅子のシートベルトをし忘れたことがある。	送迎時に利用者の様子を見て言葉をかけている。	大通り右折の時右後半よりバイクが来てヒヤリとした。	利用者様の時間指定があり、行ったり来たりになる。	
小型リフト操作時、利用者の方の足を挟んだことがある。大勢の職員が関わっていたので油断した。	迎・送とも登下校時間や保育所の送り迎えの時間と重なる。歩行者、自転車はルールを守ってくれない。	裏道から本通りに出る時、横断歩道があるところで左右の見通しが悪く、自転車がスピードを出して通りを通り過ぎることがありヒヤリとした。	利用者が身支度の時間を逆算できていない時がある。	
バックや二重駐車などで、前輪が縁石に乗り上げる時にアクセルを吹かしてしまい、後ろの車に接触しそうになった。	車が施設やご自宅に着く前に利用者が勝手にシートベルトを外してしまうことがあった。	送迎中、後ろからダンプに追い立てられた。	利用者様同士の相性を配慮した座席配置が必要。	
リフトに自分の足を挟んだ。	車から降りる際、足台(ふみ台)から利用者の足がずれてしまい、あやうく転倒しそうになった。	走行中、歩道との段差が大きく、車体が大きく揺れ利用者が車内で頭をぶつけてしまった。	ドライバーによっては走る道が違う。	
利用者との会話は大切かもしれないが、それが原因で曲がらなければならないところを直進してしまった。	赤信号で停止時に、後部の車がブレーキ操作を間違い接触した。	急ブレーキにより、利用者が椅子からずり落ちそうになった。	送迎時お休みが多く時間がありすぎて困った。	
必ず、朝確認の電話をして出発する。認知的な利用者も何人かいますので、遅れる方がいる。	青信号で渡る時、自転車の信号無視にヒヤリとした。	完全に車が停止する前にドアを開けてしまう利用者がいた。	ドライバーによる順路の違いで時間がちがったりする。	
	ドライバーのおしゃべり(しゃべりすぎ)。	シートベルトをはずし忘れたままリフトを降ろそうとした。		
	お迎えに行った方の家の前や横をさらに通る事がある。	走行中の車椅子からのずり落ちそうになった。		
	走行中の車椅子からの立ち上がり。	車両運転中に子どもの乗った自転車がいきなり歩道から車道に飛び込んだので、よける為にセンターラインを割り込んで走行した。		
	リフト上昇中の車椅子からの立ち上がり。	利用者さんを乗車中に自転車が突っ込んでくる場合がある。		
	危険予測の運転。	雨の日、窓が曇ってバックが大変だった。		
	車椅子固定フックをかけたがロックを忘れた。	利用者の杖を車のドアに挟んだ。		